

## 経済のグローバル化

2011年5月27日

山口輝晃

### 目次

1. はじめに
2. グローバリゼーションとは
3. 経済のグローバル化
4. おわりに

#### 1. はじめに

我々の身近に存在する品物を見てみると、海外との取引を抜きにして純粋に国内だけで生産されているものというはますます少なくなっている。また、楽天やユニクロなどが打ち出した英語の社内公用語化などを例とする様々なグローバル化の流れが、より急速に我々の現代社会を飲み込んでいる。

今回の勉強会では、そうした現代社会を読み解くうえで欠かせないグローバル化にスポットを当てて、その中でも特に、経済面について論じてみたいと思う。

#### 2. グローバリゼーションとは

##### (1) グローバリゼーションの定義

「科学技術の進歩とそれに基づく交通・通信・情報処理手段の高速化と低価格化に支えられて起こる、財・サービス・資本・人・情報の国境を越えた交流の高度化がもたらす、政治・経済・社会構造の再編成過程」(遠藤、2003、p. 12)

##### (2) グローバリゼーションの起点

1970年代に求める見方

近代の開幕とされる16世紀に求める見方

近代以前に求める見方

### 3. 経済のグローバリゼーション

#### (1) グローバルな経済秩序の出現

1944年 ブレトンウッズ会議

国際通貨基金(IMF)、国際復興開発銀行(IBRD)、  
関税及び貿易に関する一般協定(GATT)が設立  
(後に GATT は世界貿易機関(WTO)に引き継がれる)

国際貿易の拡大、国際経済活動に関する拘束力あるルールの確立、  
安定的な国際通貨制度の創設

\* ...資本(国際金融)取引は規制された

1971年 ニクソン・ショック

ブレトンウッズ体制崩壊

1970年代 高インフレ、低い経済成長率、政府部門の赤字、オイル・ショック

統制型資本主義の政治的諸勢力は、経済・社会政策への新自由主義的アプローチ  
を唱える保守的政党に選挙で敗れる

1980年代 英サッチャー首相、米レーガン大統領がケインズ主義に対抗する新自由  
主義を先導

グローバリゼーションという考えを意識的に世界中の経済自由化と結びつけた

#### (2) 経済のグローバリゼーションのポイント

生産の国際化、企業の多国籍化、知識経済化

第三世界 農産物、鉱産物などの一次産品

欧米諸国 工業製品

伝統的国際分業

1970年代 新興工業諸国(NICs)、新興工業経済地域(NIEs)が台頭

先進国は付加価値の高い工業品、中進国は付加価値の低い工業製品

新しい国際分業

生産の国際化 企業が世界各地に点在する生産拠点や販売拠点間の相互調整や  
統合を行う能力を高める  
オペレーションを調整・統合するという能力を多国籍企業は高める

頭脳を先進国に残し、単純労働を途上国に配置  
知識経済化問題

金融の国際化

金融自由化、金融工学の発達  
カジノ経済化に拍車がかかる  
通貨危機、金融危機の発生

経済格差と不均衡

#### 4. おわりに

今回、グローバリゼーションを経済的側面からみてきたが、政治過程・制度や倫理などから切り離して考えるのは困難であった。そして、グローバリゼーションがあらためて多層的・多層的な性質であることを痛感した。

グローバル・スタディーズを学ぶ際には、よりいっそうの幅広い知識と教養が必要なジェネラリストとあらねばならないと肝に銘じて今回を終えたいと思う。

#### 【引用・参考文献】

伊豫谷登士翁『グローバリゼーションとは何か 液化化する世界を読み解く』平凡社、2002年。

岩崎正洋・植村秀樹・宮脇昇（編）『グローバリゼーションの現在』一藝社、2000年。

遠藤誠治『グローバリゼーションとは何か』かわさき市民アカデミー出版部、2003年。

遠藤誠治「現代紛争の構造とグローバリゼーション」、大芝亮・藤原帰一・山田哲也（編）『平和政策』有斐閣、2006年。

ステイガー、M.B.『新版 グローバリゼーション』櫻井公人ほか(訳)岩波書店、2010年。

中谷義和(編)『グローバル化理論の視座』法律文化社、2007年。

正村俊之『グローバリゼーション 現代はいかなる時代なのか』有斐閣、2009年。